

【小規模企業景気動向調査】(令和6年3月期調査 全国商工会連合会 4月26日発表分 参照)

<産業全体>

◇…需要回復への見込みから受注が好調も、採算DIが低迷する製造業…◇

3月期の産業全体の業況は、売上額DIを中心に、全DIが上昇した。年度末需要の高まりや、新生活に向けた人流の活性化から、全業種で売上DIがプラス値へと上昇した。売上額が改善する中で、採算性の改善は全事業者において目下の課題である。しかし、顧客離れを恐れて、原材料エネルギーや物流コスト等の値上げ分すら価格転嫁できていない事業者も多く、物価高騰における経営改善に苦慮している。

<製造業>

◇…生産ラインの停止や不正問題等の影響が色濃い製造業…◇

製造業は、売上額・資金繰りDIが小幅に上昇した。年度末によるイベント需要から、受注は増加傾向であった。食料品関連では、価格転嫁の影響により売上額は増加傾向であるが、依然として仕入れ価格の上昇は続いている。繊維工業関連は、生産ラインの稼働が止まっていた工場もあり、全業種を通じて唯一、売上額DIがマイナス値であった。機械金属関連は、元請けより自動車関連の受注が減少したことで、売上や採算に影響が出ている事業者が増えている。

<建設業>

◇…駆け込み需要の増加や、暖冬によるエネルギーコストの減少等、好調傾向な建設業…◇

建設業は、採算・業況DIが小幅に上昇、売上額DIは大幅に上昇した。年度末の駆け込み需要により、受注件数が増加したことに加え、暖冬が好材料となり、水道光熱費等のコストが削減できた事業者も多く、資金繰りDIを除く全てのDIが直近1年で最も高い数値となった。一方で、災害特需は続いているが、利益率が低いことから、資金繰りに影響が出ている事業者もある。また、大幅な経営改善に至らぬ要因について、深刻な人材不足であることや、業種として下請け企業が多く、価格転嫁が容易でないことを挙げるコメントもみられた。

<小売業>

◇…新生活需要により、全業種で売上額がプラス値となった小売業…◇

小売業は、採算・資金繰り・業況DIが小幅に上昇し、売上額DIが大幅に上昇した。新年度に向けた生活用品等の需要が高まり、全業種で売上額DIが大幅に上昇。衣料関連は、値上げが消費者に浸透し、採算面は安定し始めたが、気候変動等による季節的な需要予測が立て辛くなっている。耐久消費財関連では、自動車の生産調整により、消費者ニーズがあっても販売できなかったケースもあり、機会ロスが発生している。

<サービス業>

◇…旅館業を中心に、全業種で全DIが上昇したサービス業…◇

サービス業は、売上額・資金繰り・業況DIが小幅に上昇、採算DIが大幅に上昇した。インバウンド需要は堅調で、例年以上の盛り上がりを見せており、国内でも北陸応援割や復興作業等での宿泊利用者が増加し、旅館関連が業種全体を牽引している。クリーニング関連および、理・美容関連は、年度末の式典等がコロナ禍以前の規模で開催されるようになり、需要が伸びつつある。一方で、地域の人口減少等により、需要が頭打ちとなっていることから廃業を検討する事業者も増えている、とのコメントもみられた。

産業全体

製造業

建設業

DI	2月	3月	前月比	DI	2月	3月	前月比	DI	2月	3月	前月比
売上額	70	118	48	売上額	83	98	15	売上額	114	175	6.1
採算	▲142	▲118	24	採算	▲136	▲137	▲0.1	採算	▲148	▲124	24
資金繰り	▲11.4	▲9.9	1.5	資金繰り	▲11.8	▲10.3	1.5	資金繰り	▲11.6	▲12.0	▲0.4
業況	▲7.7	▲5.7	2.0	業況	▲8.0	▲7.9	0.1	業況	▲6.3	▲4.3	2.0

小売業

サービス業

DI	2月	3月	前月比	DI	2月	3月	前月比
売上額	▲0.2	7.3	7.5	売上額	8.7	12.8	4.1
採算	▲18.4	▲16.8	1.6	採算	▲10.0	▲4.4	5.6
資金繰り	▲15.2	▲13.9	1.3	資金繰り	▲6.8	▲3.3	3.5
業況	▲13.7	▲12.5	1.2	業況	▲2.8	2.1	4.9

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 4月17日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

景況等...企業の業況判断は、足もと悪化し、先行きは慎重な見方となっている。

需 要...個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は、増加計画にある。

生 産...生産は、弱めの動きがみられる。

雇 用...有効求人倍率は、前月を上回った。雇用者所得は、全体として改善の動きがみられる。

金 融...倒産件数は、前年を上回った。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（4月12日発表分）

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、増勢が鈍化している。

こうした中、生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい圏内で推移している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分	R5.6	R5.9	R5.12	R6.3	R6.6(予測)
全産業	9	10	18	14	8
大企業	13	21	24	19	14
中堅企業	11	15	18	10	6
中小企業	5	2	15	14	6
うち製造業	▲1	6	13	9	6
うち非製造業	20	15	23	21	11

出所：県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（3月）について

市内動向

市内では、非製造業を中心に、3月の景気動向は天候不良により売上が停滞しつつも、緩やかではあるが持ち直し傾向を維持している。ただ依然として対面型サービス業での個人消費は、物価高の影響を受け持ち直しは大きく伸びない状況が続いている。

製造業では、自動車メーカーの不祥事による1月以降の生産活動の縮小が始まり、その悪影響が3月においても少なくなく、収益面での悪化が継続した。先行き感は、全体として、物価上昇による需要減やコスト増、人手不足などによる悪影響がしばらく続くものと懸念している事業者が多い。

製造業

製造業全般の生産活動は、3月は前月比で微増しているものの、大きな回復基調には至っていないところが多い。特に自動車関連業種では、1月以降から続くメーカー不祥事の悪影響を引きずっていることも景況感の下向きに働いた。

先行き感も製造業全般において、高い伸びへの期待感は薄い感じがある。依然として続いている原材料価格やガソリン、電気代などのエネルギー価格の高止まりが、利益を圧迫しており、価格転嫁はしているものの、すべてのマイナス要素をカバーできておらず、更なる価格転嫁も検討する必要があるが、取引企業との関係もあり、再転嫁が難しいとの声も多い。

建設業

建設業全般では、公共工事の受注やリフォーム工事の受注などで売上を維持しているが、仕入原材料や物価の高騰の悪影響により、利益を圧迫しているところが多い。

また、人手不足による外注費増加が継続しており、先行き感は、コスト増と人手不足による悪影響がさらに続くものと懸念している。今後、公共事業の入札や経済活動の活発化に向けた各種施策に期待している。

小売・サービス業

3月は、春の季節需要が見込まれていたが、天候不良が続き、人流が減少したことを受けて、飲食業を中心とした各種対面型サービスにおける売上が悪化したところが多い。また、物価高の影響を受けており、個人消費自体の支出が大きく伸びないでいる。コストの上昇分に対してある程度は、価格転嫁したところも見られるが、原材料やエネルギーの価格上昇分のすべてには追いついていないところがほとんどである。

小売業では、百貨店・スーパー、ドラッグストアなどの大型店の食品関連売上は好調を維持しているものの、小林製薬の紅麹問題により、仕入の影響のみならず、風評被害を懸念する消費者も多く、販売への影響も少なからず出ている。先行き感は、特に小売業では4月にさらなる食品関連の値上げが予定されていることもあり、節約志向の高まりから、消費の落ち込みを懸念しているが、大型連休における個人消費に期待している。

